

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200519		
法人名	社会福祉法人 八代市日奈久北部福祉会		
事業所名	グループホーム 瑞穂乃國		
所在地	熊本県八代市日奈久大坪町828番地1		
自己評価作成日	令和6年12月25日	評価結果市町村受理日	令和7年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1		
訪問調査日	令和7年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

設立して一年目の施設ですが職員、入居者ともに一緒になってよい施設を作り上げていっているところ
です。
その人の個性や生活歴を尊重しアットホームな暮らしの提供。笑顔あふれる日々を暮らしていく。
入居者の生活リズムを大切にその人のペースに合わせて支援を行っている。
当法人が運営しているみずほ保育園との交流する機会を多く設けて、イベント等に参加している。子供
たちとの触れ合いでいつもとは違った笑顔や反応があり入居者様の刺激となっている。
日奈久という町並みはのどかな風景が広がり町や海沿いへのドライブや日奈久温泉も近い立地にあ
り温泉街の散策や足湯に浸かったりしての外出、近所の日奈久阿蘇神社への参拝なども行うように

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を「自分らしく。その人らしく。」～笑顔あふれるアットホームな暮らしを～、と定め、入居
者・職員ともに人としての個人を尊重し、それぞれの自由な暮らしを大切にしたいとホームであり
たいとしている。母体法人が長年同地域で保育園を運営しており、開設から1年目のホーム
は、地域の方々へスムーズに受け入れられ、地域行事への参加や保育園児との交流等も行
われている。食事は食材の購入から調理まで職員が交替で行い家庭的な食事が提供されて
いる。御立岬までドライブしたり、お祭り見物、小学校の150周年空撮参加等、戸外に出かけ
る支援も多い。日奈久地区での認知症の方々の支援拠点として活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく その人らしく」～笑顔あふれるアットホームな暮らしを～ 施設事務所内に掲示し、職員一同理念をを共有し介護への考え方の土台としている。	入居者・職員、共に人としての個人を尊重し、それぞれの生活歴と自由な暮らしを大切にしたいという思いを込めて、理念を「自分らしく。その人らしく。」～笑顔あふれるアットホームな暮らしを～、と定めている。理念を日々のケアの原点とすべく、会議等で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントには入居者とともに参加して地域住民との交流も図り施設認知度も上がっている。 月2回ある町内会のいきいき元気体操に参加している。	母体法人は、同地域で長年保育園を運営しており、ホーム開設は、スムーズに地域住民に受け入れられている。保育園の保護者や、保育園卒業生も職員として受け入れている。神社のお祭りや、公民館での体操に参加するなど、開設から、自然な形で地域との交流を始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントやお散歩等で地域住民とお会いした時には立ち止まって話したり、以前から知っている入居者を見つけ話しかけられたりと地域住民の理解も得ていると感じる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表者、行政職員、地域包括職員、住民代表者の参加があり、活動報告を行うとともに地域の情報や活動内容やサービス向上の助言をいただき職員間で共有し活かしている。	令和6年4月の開設から、2カ月おきに運営推進会議を開催している。ホームから入居者の活動状況や職員研修等の報告を行い、委員との意見・情報交換が行われている。委員からは、地域との交流などについて、協力的な意見や情報が得られており、ホーム運営への活発な意見が交換されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや新たな取組等がある際は積極的に市町村担当者である指導係へ報告・連絡・相談を心がけている。 市町村からの依頼がある際は即対応するよう心がけている。	令和4年度の開設準備スタートから開設まで、不明なことは、都度、市に相談し、指導を受けて運営開始に至っている。運営推進会議にも行政職員の参加を得ており、ホームの状況等の報告で、協力関係の構築に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加して当日参加できなかった職員には再度施設内研修を行い学ぶ。	「虐待防止・身体拘束適正化委員会」を3カ月に1回実施し、委員会での決定事項は、毎月実施される職員会議で全職員へ周知している。スピーチロック、ドラッグロック等について注意しながら、自由でアットホームな暮らしの支援の実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で学び職員間で共有している。言動や言葉の使い方に注意を払いその人にあつた対応を行う。職員との面談を行いストレスチェックを実施している。なんでも言える職場環境を作る。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加して会議時に職員への落とし込みをし職員間で共有する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は初めに十分な説明を行ったうえでよく考えてからの返事をいただくようにしている。不安点や分からないことがある際は遠慮なく連絡するよう促している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や状態報告の電話の際は要望をお尋ねし要望があつた際は職員間で共有し最適な対応方法を実践している。	家族の面会時に、入居者の生活の状況を報告している。また、季節ごとに発行される「瑞穂通信」にお祭りや、外出、保育園児との交流等のイベントの様子など写真を沢山掲載して、家族へ報告している。家族からの意見・要望等は少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での発言を促し全員で話し合い決定する。全職員で作り上げる。個々の意見や提案を聞く機会を設けて面談し職員間でも共有する。	毎月1回、職員会議を開催し、入居者の状況や気になることなどを話し合い、検討の場としている。また、各種委員会からの決定事項を職員に周知し共有している。管理者は、職員が意見の言いやすい職場環境づくりを目指して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者の情報のもと確認し就業環境の整備を図る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修や外部研修に積極的に参加しスキルアップを図る。スキルアップ研修や資格獲得等の要望があればシフトの調整し機会を確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス八代ブロック会に参加し同業者との交流する機会を設けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の第一印象を気にかけて入居者と接し、傾聴して本人の要望等を聞き出し信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時や契約時、入居日には家族皆さん同席のもと話を聞く時間を十分に設けている。 要望や思いをいつでも質問ができるように電話や面会時間を幅広く設定している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に関しては慣れるまでの時間も要するため一日一日の出来事を記録しできるだけ詳しく報告し職員間で共有するようしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として入居者を敬い、目線を同じにすることによって「している。」「されている。」という立場をなくすようしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時間を広く設定することによって面会に来やすい、来れやすい環境を作る。 定期受診の際はできるだけご家族とともに受診していただくようしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる方はご家族に確認の上、なじみの方、ご近所の方なども受け入れている。	地域の神社のお祭りや、近隣を散歩をする時、近所の人から声かけられたり、馴染みの公民館で元気体操に参加するなど、馴染みの場所での暮らしの継続が支援されている。親族や知人、昔の教え子などの来訪もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけホールにて過ごすことにより入居者同士の関わり合いを多く設ける。 ホールでのレクリエーションを実施して皆参加できるような環境を作り出す。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もお困りごとのある際はなんでも連絡していただけるような信頼関係を構築していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の動きや表情を観察し話をすることでその人の思いや要望などを感じ取り対応している。	職員は、入居者個々に声掛けしたり、生活歴の中から情報を得るなどして思いの把握に取り組んでいる。お手玉が好きだったという入居者の一言に職員がお手玉を渡してみると、見事なお手玉ぶりが披露され、入居者の一面を発見したという例がある。保育園児との交流で披露する機会を持ちたいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプランやアセスメント情報を全職員確認し日々入居者との会話で新しい発見があれば皆で共有できる体制をとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った過ごし方や動きを把握して本人のペースで生活していただくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング情報をもとに本人、ご家族様の要望を取り入れ介護職員も一緒になって検討し無理のない計画の作成を行っている。	入所時は、本人と家族の要望を聞き取り、生活歴、入居前のケアプラン等を参考にし、入居後の様子や介護記録を見ながら仮のプランを作成し、3カ月後の見直しとしている。ケアプランは、「自分らしく。その人らしく。」の生活支援のため、本人本位を大切に計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の情報を記録に残し対応に困ったことがあればいろいろな方法を考え実践し成功事例があれば共有していく体制をとっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まずやってみようの精神で意見には否定せず検討し取り組むようにしている。否定するならば他のアイデアを出すよう指導している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のいきいき体操に近所の方々と一緒に参加したり、学校行事や地域行事にも積極的に参加するようしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や本人のかかりつけ医をそのまま引き継ぎ定期的な受診はご家族に連れて行ってもらっている。 ご希望や介護しているうえで何か伝えたいときは職員も同行している。	入居前からのかかりつけ医への通院同行は家族に依頼し、必要に応じて職員が同行することもある。希望者には訪問診療がある協力医療機関を紹介している。また、毎週1回の訪問看護による健康観察、緊急時24時間受付体制等を整備しており、適切な医療を受けられるように配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的なことは看護職員や協力医療機関に相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員も同行して情報の提供を行っている。わからないことがあればお互いに電話でのやり取りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期は本人、ご家族様の希望を受け入れるよう話し合いの場を設ける。	入居契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」にもとづき、重度化した場合の医療機関、訪問看護ステーション体制について説明している。重度化した場合や終末期に向けたホームの具体的な対応についての方針の策定はこれからとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署との意見交換会を実施し救急時の対応を学んだ。 救急蘇生の方法を法人内で実践研修し参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアル作成をし職場内研修を行うことで対応できる体制を整える。 台風時などは事前準備を行っている。	5月に法人内保育園と合同で水害避難訓練を行っている。また、秋には日中の火災を想定した火災避難訓練を実施し、入居者も参加している。災害に備え、卓上コンロ・発電機・お米等を備蓄している。	夜間想定火災避難訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個の尊重を意識して人生の先輩として接するよう心掛けている。その人の生活歴の把握を重要視している。	理念「自分らしく。その人らしく。」と表明しており、入居者個人の尊重をケアの原点としている。生活歴の中から、いやなこと、聞かれたくないことなど、出来るだけ配慮して暮らしを支援したいとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の動きや表情を良く観察して思いや希望を引き出すよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いを尊重して生活リズムに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や面会時にはその人の要望を聞き、衣類等選択している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下や咀嚼状態を確認してそれぞれに合った食形態を思案している。食器洗いや茶碗拭き、配膳、下膳などできる方にはお手伝いしていただいている。	毎週、女性職員が献立を作成し、食材を購入して職員が持ち回りで調理し、家庭的な食事が提供されている。食事時間は標準はあるものの、個人のペースで食事を摂ってもらえるように配慮している。クリスマス・年末・雑祭り等、季節に応じた行事食も提供している。おやつにパウンドケーキやホットケーキ等を作って楽しむ支援もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録して確認、体重の変化に気にかける。むせ込みや咀嚼の観察も行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛けし洗面台に誘導して口腔ケアを促す。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間や日中でのおむつやりハパン、布パンツの変更、トイレへの声掛けを行う。一日の排泄時間を記録してパターンの把握を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの快適な排泄となるよう支援している。出来るだけ布パンツを使用できるように、また、排泄用品は個々人の状態に最適な物になるよう、職員で検討して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を記録してその人に合わせ処方された便秘薬等で調整を行う。また、食物繊維やヨーグルト等の提供で排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には順番で入浴を実施しているが本人の希望や体調に合わせて変更を行っている。	週に2回の入浴支援を基本としている。近くの足湯へ行ったり、入浴剤やゆず湯、カーネーションを入れるなど、気分を変えて入浴を楽しむ支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のリズムに合わせて午睡や入眠時間の調整を行っている。夜間眠れないような日が続けば日中の活動量を増やしたりし昼夜逆転の防止をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はファイルに綴じ職員がチェックできるようにしている。薬のセッティングをして管理し誤薬や飲み忘れを防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った役割をお願いして日々過ごしていただく。イベントやレクリエーション等も強要はせずに参加意思があれば参加してもらうようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望は全部は叶えられないが本人や職員の状況次第では対応できるように検討して実施している。	御立岬までドライブ、神社へお散歩、お祭り見物、小学校150周年空撮参加など、様々な機会をとらえて戸外に出かけられるよう支援している。今年は、桜の花見や、昔住んでいた地域へのドライブなども実施したいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の持ち込みは禁止している。消耗品や嗜好品はご家族様からお金を預かり施設で管理し買い物代行や支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みは認めており電話ができる方は自ら電話している。年賀状に一言書いていただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングをキッチンから見渡せるつくりにして料理のにおいも楽しめるように生活感を創出している。各季節のイベントごとにリビングを装飾したりして季節感を創出している。	建物の中央にリビングダイニングがあり、職員は厨房で調理しながら入居者を見守ることができる。吹き抜けの天井は開放感がある。訪問日、入居者はテレビの前のソファにみんな一緒に座って仲良くおしゃべりしている様子が見られた。心地よい空間で安心した暮らしが支援されていることを覗うことができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル椅子を置いてありその人思いの席に座れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の家の延長と考え今まで使っていた家具等の持ち込みを推奨している。 部屋の整理整頓は一緒に行い援助している。	ホームでは、ベッドの設置のみで、カーテンを含め全て入居者の持ち込みとなっている。整理ダンスやイス、衣裳掛・衣装ケース・テレビ・お位牌・化粧品等、思い思いの生活用品を自由に持ち込み、入居者が自分らしく生活ができるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には表札を掲げ、トイレにはトイレ、便所、厠など、それぞれがわかるような言葉で表示している。		